

○ 指導室

1 学校における教育課程及び学習指導並びに専門的事項の指導に関すること

(1) 町内小中学校定例校長・教頭会議の対応（毎月1回及び臨時）

- ① 教育委員会からの連絡及び協議
- ② 今日的教育課題の資料の提示並びに指導の依頼
- ③ 各種調査・提出物等の依頼
- ④ 各種研修講座等への参加状況報告並び依頼
- ⑤ 教育関係年間行事予定の月ごとの微調整

(2) 学校教育訪問指導の推進

- ① 教育局義務教育指導監による経営指導訪問（全小中学校実施）
- ② 教育局指導班指導主事による要請訪問指導
- ③ 定期的な指導室長の訪問指導（各小・中学校）

(3) 各種計画書作成の推進

- ① 教育課程編成届（白糠町立学校管理規則第34条・白糠町立幼稚園園則第7条の規定）
- ② 学校経営計画書

(4) 関係機関・団体との連携による推進事項

- ① 白糠町教育研究所
 - (a) 5月集会、2月集会への対応
 - (b) 所員会議における助言
- ② 生徒指導研究協議会
 - (a) 今日の課題にかかわる指導の対応
 - (b) 講演、研究協議への参加
 - (c) 管内生徒指導連絡研究協議会への対応
 - (d) 白糠町こども会議の運営指導・補助
- ③ 進路指導協議会
- ④ 教育相談
 - (a) いじめ、不登校など心の教育相談への対応
 - (b) 育成センター青少年育成指導員との情報・意見交換
 - (c) 相談窓口のPR

相談窓口

☆白糠町教育委員会（指導室）	2-2171	（内線266	森下）
☆青少年育成センター	2-3377	（専用電話	高橋）
☆やまびこ児童館	2-2081		
☆ふれあい児童館	5-4006		
☆白糠町子育て支援センター	2-2155	（何でも子ども相談室）	
☆白糠町子ども発達支援センター	2-2228		
◆相談時間：月曜日～金曜日（9:00～17:00）			

⑤ 幼小中高の連携、小中一貫教育の推進

- (a) 学校教育、家庭教育、青少年の健全育成、ふるさと教育、ボランティア活

- 動等を通じた地域の教育力の向上
- (b) 開かれた学校の交流、連携
- (c) 幼小・小中・中高各学校間の計画的、継続的交流の推進
- ・白糠地域の主な連携内容
 - …小学6年生の中学校登校日の実施・中学校教員による乗り入れ授業の実施・授業づくり研修会の実施・長期休業中の学習サポートでの連携
 - ・運動会や体育大会、学芸会での交流・生徒指導研修会・合同学校評議員会・合同PTA役員会
 - ・庶路地域の主な連携内容
 - …行事を通しての児童生徒間交流・小中合同授業の実施（公開研）・中学校教員による乗り入れ授業の実施・教職員交流・保護者交流
 - ・茶路地域の主な連携内容
 - …中学校教員による単元担任制での乗り入れ授業・教職員交流・合同研修・小中各種行事交流

2 教職員等の研修に関すること

(1) 研修講座等への参加奨励

- ① 北海道立教育研究所の各種研修講座
- ② 北海道立理科センターの各種研修講座
- ③ 北海道立特別支援教育研究センターの研修講座
- ④ 釧路教育研究所講座、釧路教育研究センター研修講座・講演
- ⑤ 町教育研究所研修事業、国立・市町村立学校指定研究会
- ⑥ 北海道教育委員会、教育局主催の各種研究協議会・研修会・講座・講習等
- ⑦ 町教育委員会主催研修事業、町教育委員会指定校発表会、町研協力校発表会、町研究協議会主催講演、PTA主催事業等

(2) 町教育研究所研究指定

年 度	令和3年度	指 定 校	白糠町立庶路学園
研究主題	「志を抱き『学びに向かう力』を持った子どもの育成」		
領域分野	全教科		
公開研究会	令和3年11月26日（金）開催		

(3) 研究会での助言・指導等

- ① 白糠町教育研究所指定白糠町立庶路学園公開研究会
- ② 北海道教育庁釧路教育局義務教育指導班

3 外国語指導、国際交流活動

- (1) 外国語指導助手（中国語）「モウ・ハイフェイ」中国国籍
 外国語指導助手（英語）「ロジャーズ・リンジー・マリコ」アメリカ国籍
 外国語指導助手（英語）「ワイレス・マシュー・ロバート」アメリカ国籍
 外国語指導助手（英語）「エドワーズ・アビゲイル・アン」アメリカ国籍
 （いずれもJET事業の活用による）
- (2) 任用 中国語ALT：令和4年3月～
 リンジー：令和2年9月～
 マシュー：令和3年7月～

アビゲイル : 令和3年11月～

(3) 令和3年度活動状況

中国語ALT～来日日程の関係で学校における勤務実績なし。

マシュー ～白糠小学校・白糠中学校での外国語活動と英語科の授業を週2日ずつ、白糠子ども園での英語に親しむ活動を週1日。また、白糠高等学校での英語の授業を週1日。

リンジー ～庶路学園での外国語活動と英語科の授業を週2日ずつ、庶路子ども園での英語に親しむ活動を週1日。また、白糠高等学校での英語の授業を週1日。

アビゲイル ～茶路小学校・茶路中学校での外国語活動と英語科の授業を週2日ずつ。また、白糠高等学校での英語の授業を週1日。

※この他、社会教育課所管の町民対象の中国語教室や英会話教室、ECクラブ（放課後英会話教室）を実施するなど、各種地域行事にも参加した。

(4) 国際交流活動

新型コロナウイルス感染症の影響により実施中止

4 ふるさと教育に関すること

(1) 交流教育連絡協議会

① 交流教育推進事業の展開

(a) 福祉教育の充実のため、幼、小、中、高校、特別支援諸学校及び関係機関、団体等の連携や交流を密にし、交流機会の充実や自ら研鑽を積み資質の向上を図る。

(b) 住民への「愛のノーマライゼーション」の精神の普及、啓発の充実に努める。

(c) 情報交流・研修会の開催

(2) 学校におけるふるさと教育活動の実践

学校名	主な実践内容
白糠小学校	1年生（生活） 「身近な人々、地域の場所」 「白小ランドへようこそ」（幼保小連携事業）
	2年生（生活） 「身近な人々、地域の場所」 「白小ランドへようこそ」（幼保小連携事業）
	3年生（総合） 「しらぬか大すき」～白糠町の自然をさぐる 「アイヌ文化学習出前講座」
	4年生（総合） 「しらぬか大すき」～白糠町の歴史をさぐる 「アイヌ文化学習出前講座」
	5年生（総合） 「しらぬか大すき」～白糠町の食をさぐる 白糠町の食の魅力を発信する 「アイヌ文化学習出前講座」
	6年生（総合） 「白糠みんなの仕事」～白糠町の産業をさぐる 「アイヌ文化学習出前講座」

学校名	主な実践内容
庶路学園	3年生（総合）「白糠の環境」庶路川を中心に（石炭・生物、川に関わる人） 4年生（総合）「白糠の食」特産品、ふるさと給食、食に関わる人、アイヌ文化講座 5年生（総合）「白糠町のPR」白糠の自然産業、一次産業、三次産業、アイヌ文化講座 6年生（総合）「ふるさとの人々に学ぶ」ふるさとの歴史・産業探究、事業所訪問、アイヌ文化講座 7年生（総合）「わたしたちの防災」避難所運営、防災宿泊学習 8年生（総合）「卒業論文プレ発表」 9年生（総合）「卒業論文発表」 ※8・9年生の2年間でふるさとを見つめ、発信、貢献、広める
白糠中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（総合） 1年：職業調べ 町のPRリーフレット作成① 2年：職業体験（白糠） 町のPRリーフレット作成② 3年：職業体験（釧路） 町の観光マップ作成 ・自然の番人宣言ポスター作成（美術） ・アイヌ文化出前講座（総合）
茶路小中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・3・4年生（総合）「白糠町の歴史・文化産業」茶路の地域にある史跡、神社、工場見学 ・5・6年生（総合）「白糠町の産業」白糠の漁業、農業、林業 ・中1（総合）「白糠町+1計画 ～知らぬかったらもったいない！～」町の施策のPR、人口増につながる手立てを考える。 ・中2、3（総合）「他市町村と比較して、今後の白糠町のあるべき道を考えよう」調査活動、町民への提言

(3) ふるさと参観日の実施

<p>白糠町の「ふるさと教育」の一環として、町内の小・中学校、白糠高等学校の子どもたちの学習や活動等を広く町民の皆様にご覧いただくため「ふるさと参観日」を開催した。【開催日：11月】</p> <p>○白糠小学校 全学年公開授業（ECタイム、ふるさと学習発表会、アイヌ文化学習）</p> <p>○茶路小中学校 全学年（ふるさと学習の発表会）</p>

5 負担金・補助等及び交付金に関すること

(単位：円)

負担金・補助等	交付先	交付金
ふるさと教育学習活動推進協議会補助金	白糠町ふるさと教育学習活動推進協議会	737,175
白糠高等学校教育振興協議会補助金	北海道白糠高等学校教育振興協議会	3,636,826
北海道教育研究所連盟負担金	北海道教育研究所連盟	7,100
町教職員研究事業推進委員会補助金	白糠町教職員研究事業推進委員会	746,321

語学力・基礎学力のびのび推進協議会補助金	白糠町語学力・基礎学力のびのび推進協議会	234,183
自治体国際化協会負担金	(財)自治体国際化協会	1,338,298

6 学力調査に関すること

(1) 全国学力・学習状況調査

【調査概要】

① 調査の目的

- (a) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (b) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (c) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

② 調査の内容

(a) 教科に関する調査

<小学校第6学年> 国語、算数

<中学校第3学年> 国語、数学

- ・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- ・知識・技能等を実生活において様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(b) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面
- ・学校に対する調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件等に関する調査の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況 など

③ 調査日

令和3年5月27日(木)

④ 調査を実施した白糠町の学校・児童生徒数

【小学校調査】 町内3小学校の6年生 計48名

【中学校調査】 町内3中学校の3年生 計39名

⑤ 教科に関する調査について

- (a) 小学校6年生、中学校3年生全教科において全国及び全道平均を下回った。
- (b) 小学校6年生の国語「言葉の特徴や使い方」、中学校3年生の数学「資料

の活用」において、正答率が全国平均、全道平均を上回った。

(c) 全町的には、国語では「読むこと」領域、算数・数学では数学的な見方や考え方を働かせる問題の解決に課題が見られる。

⑥ 質問紙調査について

<小学校>

- ・「算数の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。
- ・「将来の夢や目標をもっている」「授業でコンピュータなどのICT機器をほぼ毎日使用している」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。

<中学校>

- ・「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」「学校でコンピュータなどのICT機器を他の生徒と意見を交換したり調べたりするためにほぼ毎日使用している」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。

⑦ まとめと方策

【まとめと方策】

- ・小中ともに学ぶ意義については理解しているものの、学習意欲が低い結果であったため、学習意欲を喚起・持続させるような単元の計画の工夫及び授業改善を推進する必要がある。
- ・個別最適な学びの実現に向けた効果的なICT機器の活用等を図る必要がある。

(2) 町標準学力調査

① 目的

標準学力調査を実施し、本町児童生徒の学力状況を把握するとともに、その後の学習指導に役立てることを目的とする。特に、個人及び同一集団の成績の経年変化を見取ることにより、学校改善プランの見直しを図り、児童生徒の確かな学力の向上を目指す。

② 実施内容

- ・小学校 ～ 東京書籍 標準学力調査（CRT）による
- ・中学校 ～ 東京書籍 標準学力調査（CRT）による
- ・本年度の学力の達成状況をより適正に確認し、正確な評価（指導要録の記入）につなげる。
- ・特に次年度の学年の取り組みに向け、課題を把握し、検査結果をより有効に学習指導に役立てるものとする。

③ 実施時期

令和3年12月（3学期実施版使用）

④ 実施学年、教科

○小学校 第1～2学年・・・2教科（国語、算数）

- 第3～4学年・・・4教科（国語、算数、社会、理科）
- 第5～6学年・・・5教科（国語、算数、社会、理科、英語）
- 中学校 第1～3学年・・・5教科（国語、数学、社会、理科、英語）
- 全学年において、i-checkを実施

⑤ まとめと方策

- ・小学校5年生、6年生、中学校3年生以外の学年において、総合成績が前年度を上回った。特に小学校1年生、4年生、中学校2年生では目標値を上回った。
- ・小学校においては、5、6年生において、前年度を下回る結果となった。全学年を通して課題である教科は、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られていないことが明らかであることから、授業改善はもとより、補充的な学習や家庭学習等を通じて克服に向けた取組が必要である。
- ・中学校においては、1、3年生において理数教科に大きな課題が見られる。特に数学の経年変化を見ると、小学校算数の躓きが大きいことが明らかであるため、1年生の生徒については学習意欲を喚起するとともに、小学校算数の学習内容の定着を図る必要がある。
- ・小・中学校全体を通して、活用・発展・記述問題に課題が見られるため、単元計画の中に主体的・対話的で深い学びの時間を確実に位置付け、既習事項を活用させる問題や課題に取り組みさせる必要がある。